

平成30年8月27日

九州森林管理局 局長様

ふるさと自然の会
会長 川内野善治

国見山風力発電についての要望書

現在、長崎県と佐賀県の県境に位置する国見山周辺において、(株)エコ・パワーによる大型風力発電建設が計画され、環境アセスメントの一環である配慮書の縦覧が行われています。

この計画に隣接する佐世保市世知原町西の岳一帯は希少な動植物が生息する県内でも有数の自然の宝庫であり、北松県立公園に指定されているなど佐世保市民にとって極めて重要な自然保護地域です。また、国際的にも注目される渡り鳥のルートにも当たります。

私達「ふるさと自然の会」は長年この地域で数々の生物調査や環境保護活動を行い、また行政とも連携した環境教育や市民の保健レクレーションの場所として活用してきました。もしこの区域に隣接する場所に風力発電が建設された場合、それによる環境破壊は計り知れません。

平成23年12月16日林政審議会答申の中には「森林生態系の健全性の確保が必要との認識に立って、地域の国民の声を一層的確に把握し、その要望や期待を的確に踏まえながら国有林野の管理経営にあたるべき。」とあります。

風力発電への国有林の使用の許可については、企業の利益を優先させるのではなく、地域の国民(地域住民)の声に耳を傾け、下記の通りの甚大な影響を十分に考慮し、国有林野の健全な運営を基本に判断していただくよう強く要望いたします。

記

【風力発電建設の影響】

国見山周辺へ大型風力発電施設を建設することによる環境への圧力を考えると次の5つに要約されます。

- ① 大型発電機設備類の運搬路確保のための土地改変と照葉樹林の伐採
- ② 建設のための土地改変と森林伐採
- ③ 建設後の野鳥のバードストライクや飛行ルートの回避など渡りに与える影響
- ④ 環境教育及び保健レクレーションとしての機能の喪失
- ⑤ 優れた風景地である国見山一帯の景観への大きな影響

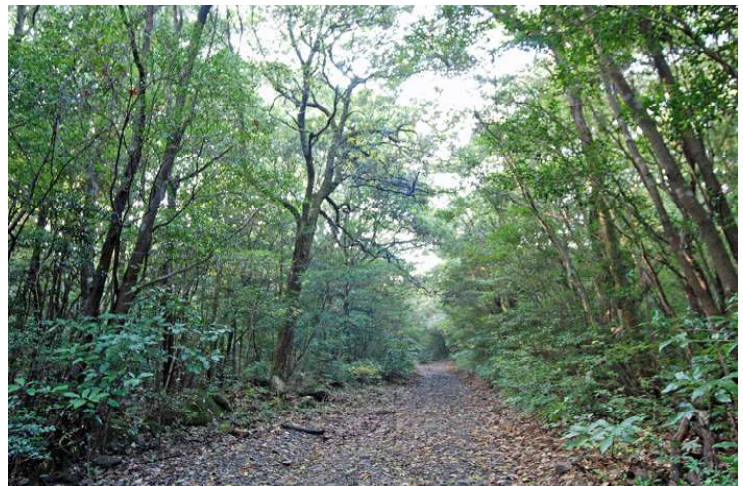
以上の5つの影響を詳しく見ていきます。

(1) 運搬路確保のための土地改変と照葉樹林の伐採

風力発電建設予定地は伊万里市ですが、機材の運搬は長崎県側から行われる計画です。

風力発電建設には大型の機材の運搬が必要になります。運搬のためには大型トレーラーやクレーンの通行のために道路幅が5m必要とされています。現在の県道や林道はカーブも多く道幅は3～4mです。

このためには道路の大規模な改修が必要です。国見山はご存じの通り



道路拡張により林縁が破壊され森林環境は一変

自然度の高い照葉樹林（アカガシ優占）で、林道は大部分がこの中にあります。照葉樹林内は暗いので草本類は林縁付近のやや明るい場所（ソデ群落）に主に生育しています。道路の拡幅を行えば、林縁のソデ群落に生育する希少植物の全てとこれに続くマント群落も失われます。

ソデ群落・マント群落が失われ、周囲の樹木の伐採が行われると、太陽光や風の侵入が顕著になり林内の乾燥化が進みます。その結果、地表層の乾燥が顕著となり土壌性生物が減少します。当然昆虫類やこれらを餌とする鳥類の減少へつながります。このように二次的な捕食者もそれに伴い減少という悪循環が起こります。

また工事用車両の多量の通行は巻き上がる粉塵や排気ガスの影響で草本類は壊滅的な影響を受けるのは目に見えています。

本来の植生遷移は、林内であれば台風や枯死木によりギャップができて周囲には強く根をはった木々や下草があるので、一時的には裸地になりますがもともとの有機物は減少することなく存在しているわけですから、元の森林に回復するまでの時間はそう長くありません。

しかし、人為的な遷移の場合は侵入してくる一年性草本も限られてきて、その場に長年にわたって世代交代をしてきた草本と同じとは限りません。特に地表性のラン類・カンアオイ類、着生ラン・シダ・コケ・菌類などには、乾燥化は最大の悪影響を及ぼします。これらの影響は徐々に現れ、多様な生態系は単純な生態系へと遷移してしまうことでしょう。

また、林道の脇には水の流れる場所があり、そこは希少種のカスミサンショウウオ・ブチサンショウウオ・タゴガエルの貴重な産卵場所となっていますが、これらも全て無くなるなど、北松浦半島で最も豊かな森林生態系に多大な影響を与えます。

なお、平成30年6月に実施された国有林モニターのアンケート調査結果によれば、「国有林に対する期待は森林の持つ公益的機能による期待が集まっている傾向があった」とまとめられています。

（２）建設のための土地改変と森林伐採

風力発電機建設用地は国有林内です。九州森林管理局の看板には「森林は国の宝です。保護育成に努め、後生に引き継いでいきましょう」と書かれています。

しかし風力発電建設では森林の伐採と土地の造成が行われます。大抵の場合風力発電機1基につき1ヘクタールが必要で、風力発電機同士をつなぐ道路も作られますから相当の面積の樹木の伐採および土地の改変が行われます。



タワーを運ぶ車両



ブレードを運搬する車両（長さ12m・自重36t）

国有林が持つ以下のような公益的機能が大きく損なわれます。

- ①木材の生産
- ②水源涵養や山地災害防止といった国土保全
- ③二酸化炭素吸収等の地球環境保全
- ④野生生物保護やレクリエーションなどの保健文化機能

（３）建設後の生態系（渡り鳥）への影響

国見山系は秋に、日本列島を経由して大陸間を移動するハチクマ・アカハラダカ・ツル類などの希少な鳥類の渡りのルートにあたり、タカ類は林内での休息も確認されています。

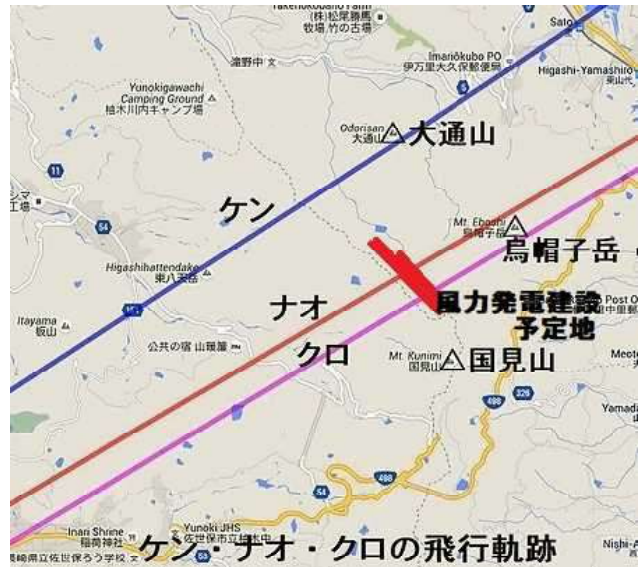
このようなことから、風力発電で問題になっているバードストライクの確率が非常に高く、渡りのルートそのものに影響を与える可能性が高いと言えます。

2012年のハチクマプロジェクト {慶應義塾大学SFC研究所生物多様性研究ラボ（樋口広芳慶應義塾大学特任教授）} によるハチクマの渡りの衛星追跡によると非常に高い確率で風力発電予定地の上を通過しています {追跡した4羽のうち3羽（ケン・ナオ・クロ）の上空通過を確認}。

ハチクマなどのタカ類は、東から飛来したものが国見山から三つの尾根沿いに沿って発生する上昇気流を渡りに使っています。

- ①国見山→小塚岳→板山→平戸
- ②国見山→長崎県と佐賀県境の尾根→冷水岳→平戸
- ③八天岳・隠居岳→木場山→烏帽子岳→平戸です。

国際的にも注目される渡りのルートに風力発電機を建設する事は、既往の調査からも明らかに大きな問題であり、国内外からの非難を浴びる可能性さえ示唆されます。



＜宇久島の風車に衝突し体が半分になったミサゴ＞

ミサゴは宇久島で繁殖し海岸を飛んでいるのをよく見かけます。ミサゴは風車の存在を良く知っていたはずですが、それなのにブレードに衝突しています。

これはモーションスミア現象によるものと考えられており、この現象は室内実験により証明されています。猛禽類は回転している風車のブレードから約10m以内に近付くとブレード見えなくなってしまう、風車の存在を認識できなくなるという現象です。人間でも、速く回る扇風機の向こう側が透けて見えますが、猛禽類ではそれがもっと早い段階で起こるということです。

毎日監視していれば別ですが、死体は普通カラスやトビなどに持ち去られたり食われて人の目に触れることは滅多にありません。このようなことでどれだけの個体が被害に遭っているかは分かっていません



（４）環境教育及び保健レクリエーションとしての機能の喪失

国見山の麓、世知原町赤木場には「長崎県立世知原少年自然の家」があります。ここには毎年2万7千人程の小・中・高校生が、「自然のしくみ」「自然と接すること」「自然の厳しさ」を学ぶために訪れます。

中学・高校生は、他所では感じることをできない、豊かな自然を体で感じるために国見山登山をしており、山頂から壱岐・五島列島・雲仙普賢岳・糸島半島などを一目で展望できたことに感動しています。

なお、佐世保市が環境省とともに推進している「エコツーリズム推進事業」においても、沢登り・自然観察など、優良な素材を含んだ地域として位置づけられています。

また、九州森林管理局のホームページにおいても「国見山の山歩き ファミリー向き」として紹介されており、『国見山は北松県立自然公園に指定されており、山岳、渓谷、春の新緑、夏の深緑、秋の紅葉、冬の霧氷など四季折々の自然が楽しめる。また、数多くの生息動物に加え、山頂からの眺望景観は絶景で東に佐賀県境の山岳地帯を、南西に烏帽子岳と九十九島を、北は伊万里市と玄界灘を一望に収める。また、遠く五島・対馬を望むこともある。』とあり、国見山の自然や山頂からの景観は九州森林管理局でも認識されています。

（５）地域のシンボルとしての国見山

佐世保市の景観100選では「国見山からの眺め」として国見山が含まれています。また長崎県の新観光100選の地としても選ばれています。なお、地元の世知原小中学校の校歌では共に1番に「国見山」が歌われています。これは地域のシンボルとして大切にされている証拠です。

「世知原小学校校歌」

- 1、国見の山がはねかえす 元気な歌のやまびこは 明るい丘のまなびやで
みんな丈夫な子になろうと 声をそろえてうたう歌

「世知原中学校校歌」

- 1、胸をはり 天を上げば 国見聳(た)つ限りなき空 若鳥の希望ゆたかに はばたかん
明日を夢見て 学舎の学舎の丘は明るし

（６）優れた風景地である国見山一帯の景観への大きな影響

国見山は北松県立公園に指定され、30m以上の鉄塔などは主要展望地（国見山展望台）から4km未満の公園内では設置は認められていません。風力発電計画は元々長崎県側も含まれていましたが、このような事情で伊万里市側に全てを建設するようになりました。

現在は国見山展望台からほぼ360度の風景が望めます。そこに風力発電が建設されると国見山の北西側に風車が立ち並ぶことになり風景を著しく阻害します。また、国見山から北西及び南東へ連なる稜線に囲まれた佐世保市世知原町にとって稜線は地域の景観として極めて重要です（囲繞景観）。なお、温泉施設「山暖簾」のレストラン・展望テラス・露天風呂からは、風車はま



長崎県・佐世保市共に景観100選の地は無くなる（予測図）

稜線に囲まれた佐世保市世知原町にとって稜線は地域の景観として極めて重要です（囲繞景観）。なお、温泉施設「山暖簾」のレストラン・展望テラス・露天風呂からは、風車はま

にも見える事になります。この辺りは民家も少なく街灯も殆ど無いことから夜は暗闇を体感でき、特に露天風呂から星や月を眺められるのが喜ばれています。しかし、風車は夜になるとフラッシュ光を放ちます。

昼夜を問わず、地域の景観や地域振興にとって大きなダメージを与えることになります。



温泉施設「山暖簾」付近から見た風景」（予測図）

以上

森林管理局の考え方を9月25日までに文書でご回答をお願いします。

なお、本要望書は当会のホームページやブログに掲載することを予めお知らせします。

ふるさと自然の会

事務局 川内野善治

〒859-6405 佐世保市世知原町開作427

TEL/FAX 0956-78-2865

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~furusato/>